

アフリカに生きる～ベナンの文化と暮らし～

【はじめに……】

みなさん、こんにちは。

僕は平成27年度4次隊で西アフリカの『ベナン共和国』という国に**コミュニティ開発**という職種で派遣されている**高木拓希**(たかぎひろき)といます。

活動任地はドンガ県ペネスル区**コドワリ村**という人口4,000人程のアニ族の農村。

ここで二年間、村の人たちと共同生活を送りながら様々な開発支援活動を行っていくことになる予定です。

そもそも『ベナン』ってどんな国？



と疑問に思われる方もきっと多いでしょう。

ベナンは人口およそ**1,000万人**、面積は日本の**約3分の1**でアフリカの西に位置しています。

公用語は**フランス語**なのですが、日常生活においては国内になんと**40以上も存在する民族**それぞれの独自の言葉で会話をしています。

40近くもあるとなんだか日本の方言のように思えてきますが、実はそれぞれの言葉の間の共通性は薄く、「おはよう」や「ありがとう」等の表現からして互いに異なっていることがあります。

(ちなみに僕の任地コドワリ村はアニ族の村なので皆、**アニ語**を使います。)

【ベナンの生活と人々】

今回、**第一回目**のベナン通信。

現地の生活や人々の様子を説明するにあたって、言葉よりもなにより写真でお伝えした方がよりアフリカの雰囲気を感じ取って貰えるかと思しますので、いくつかご紹介します。





最初に紹介するのが、飛行機から降りてまず誰もが訪れることになる大都市**コトヌー**。ベナンの首都は**ポルト・ノヴォ**という街なのですが、経済的に規模が大きいのがこのコトヌー。ベナンと諸外国を繋ぐ空港や港があり、数多くの政府関係省庁や民間企業の本部がある**ベナンの顔**ともいえる街です。街中にはベナン共和国の歴史を物語るモニュメントや広場が数多く存在し、いつも多くの人で賑わっています。アスファルト舗装された主要道路を少し外れると、大都市コトヌーで暮らす人々の等身大の生活が見えてきます。この街では、ベナン国中から様々な民族が集まってきているため一概にはそうとは言えないのですが、**フォン語**という最も多数派の言語が用いられています。子供たちが学校から帰ってくる頃になると、近所の人たちが《**A fon ganji a? (Tu as fait un peu ?=調子はどう?)**》と尋ねる声が聞こえてきます。お決まりの挨拶のようなものです。

次に紹介するのが**アボメ・カラヴィ**という町。先に紹介したコトヌーの隣街にあたる此処はベナンらしい赤土と木々の緑が印象的です。僕たちボランティアはベナンに到着後、この町で数週間ホームステイをして現地で実際に話されているフランス語や現地語(フォン語などの民族語)の感覚を掴みます。また、言語だけでなく買い物や食事、各宗教での慣習等身をもって体験することでより一層ベナンについての理解を深めるのです。ちなみに、ベナン人の信仰する宗教には**キリスト教**、**イスラム教**の他に伝統的宗教(**ヴードゥー教**)がありますが、異なる信徒同士でもお互いの信仰を尊重しあって生活しています。僕の任地コドワリ村では村人のほぼ全員が**ムスリム**です。



右の写真は、ベナンでよく食べられるベニエ(揚げ菓子)と温かいお粥状のタピオカ。砂糖をまぶして食べる。

まだまだ、任地コドワリ村の様子など、写真にあげたいものは多いのですが今回はこれで一旦終わりとします。ありがとうございました。

次回は村での生活を中心に紹介できたらと思います。

最後の写真は、村の中によくいるヤギ。高いところが好きなようで、岩の上や積

まれた煉瓦の上によく登っては鳴いています。僕はベナンに来て初めて間近にヤギを見たのですが、写真のようなヤギが村内に数多く放し飼いにされている光景はかなり衝撃的でした。



【次回の報告について】

現在、アフリカの発展は目覚しく、ここベナンにおいても携帯電話やパソコンからインターネットに接続することが可能です。但し村落地域においては電波状況および電気供給が不安定なところがあり、僕自身も、可能な限り、現地での生活・活動の様子やベナンの紹介を発信し続けていきたいと思っはいますが、更新が遅れることが多々あるかと思ひますのでご了承ください。

ご意見・ご質問等ありましたら以下のメールアドレスまでご連絡ください(村内の電波状況によっては返信が遅れることがあります。)

[mailaddress0323\(アットマーク\)gmail.com](mailto:mailaddress0323(アットマーク)gmail.com)